

太宰府市短歌ポスト第百二十一期入選歌

(令和六年二月二十二日)

太宰府でかどかむ兩年に息をかけ家族の健康祈る年の瀬

三重県松阪市 中川智賀

菊花展色鮮やかに香ぐわしく七五三の児ら負けじと咲けり

太宰府市 安達奈津

御神牛さすりて上がる太鼓橋梅ほころびて仄かに香る

福岡市 白井道義

冬日和裸梅木の中の茶屋梅枝餅に笑みこぼれ咲く

埼玉県鴻巣市 龍前結子

青春のおもいで深き赤いはし当時の思い子へと渡りぬ

佐賀市 内田努

降り初むる雨の匂へる太宰府の参道急ぐ異郷の旅人

筑紫野市 桂仁徳

手袋を送ってくれと言う息子届けに来たよ海越え太宰府

石狩市 長太一世

小・中学生の部

梅の木にまもなく花がまよみだれ観光客でとてもにがわう

福岡市 楊井朝日 十才

冬の空ひらひらひらり雪がふる年が暮れたらお正月だぬ

飯塚市 吉村優花 十一才